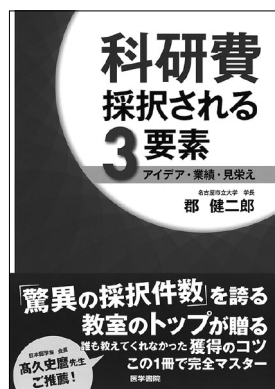


『科研費 採択される3要素 アイデア・業績・見栄え』

自分の研究が看護の発展に つながる希望がもてる、 若手研究者、必読の一冊

著：郡健二郎／定価：本体 3,800 円＋税
発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



この手の how to 本はほとんど読んだことがない。どちらかというところと遠慮したいくらいであった。しかし、この本は目次を見ているだけでワクワクするのである。著者の郡先生の研究に対する姿勢、日本の医療系の研究者に対する期待感であふれているように感じた。大学院生や若手研究者には少々値が張るかもしれないが、この本は how to 本ではなく、研究をするうえで最も大切な、「この研究をする意味」を追究するものであり、研究者にとっても心の拠り所となる指南書である。

この本は4章に分かれている。第1章は「研究の楽しさ、美しさ」、第2章は「科研費の制度を知る」、第3章は「申請書の書き方」、そして第4章は「見栄えよくするポイント」である。この本最大の魅力は、疑う余地もなく第1章である。

そこには、郡先生の「研究とは人生のようなもの」というメッセージのごとく、すべてのエッセンスが凝縮されている。ここで一気に心をつかまれて、研究で悩んでいる人にとっては、大きなエールをもらえるだろう。たとえば、看護研究者に多い家庭との両立はどうするのかというようなことや、30代の過ごし方なども紹介されており、悩み多き若手教員にはありがたい言葉がたくさん並んでいる。同時に、この章は郡先生自身の体験や見聞きした研究者の言葉、ノーベル生理学・医学賞をとられた山中伸弥先生の言葉なども紹介され

ている。まさに郡先生の「すべて」を注ぎ込んだものであり、「なぜ研究をするのか」という問いへの答えを深化させている。

圧巻の第1章を読めば、各章へと続く採択される科研費の申請書の書き方がより深く頭に入ってくる。タイトルにもある3要素「アイデア・業績・見栄え」の位置づけが明確になるだろう。さらに、この本を読んだ人だけが手にできる、これまで門外不出としていた、郡先生の研究室のチェックリストもある。チェックリストには単なる申請書の書き方ではなく、その申請書を準備するまでにどれくらい深く検討してきたのかということにもふれている。どのセクションもまるで誠実な論文のような、読み手への気遣い、そして研究の対象者である患者さんたちへの敬意とさえ感じる著者の研究への意気込みが浸透しており、研究者としての基本的な部分を揺らぐことなくもてるように思う。読むだけですぐに素晴らしい申請書が書けるようになるとは思わない。しかし、まずできるんだと一歩踏み出すことができる。

この本には、日本の医療界でのトップランナーの哲学が込められている。トップランナーの研究者がこんなに本気であることが素直にうれしい。この本の通りに科研費の申請書をみんながみんな用意したら……日本の科学、看護が間違いなく飛躍の発展を遂げると確信した。